

# 平成21年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

平成21年11月16日（月）

15:00～17:00

仙台市議会第五委員会室

## I 次第

### 1. 開会

### 2. 諮問「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の改定について

### 3. 議事等

#### (1) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改定等について

- ・ 現行計画の進捗状況等について
- ・ 平成20年度一般廃棄物処理動向等基礎調査について
- ・ 平成21年度一般廃棄物処理実態等調査の実施について
- ・ 検討すべき方向性等について

#### (2) その他

### 4. 閉会

## II 出席委員数 出席 12名

欠席 8名（荒井委員，猪股委員，鹿郷委員，鈴木泰爾委員，高橋委員，紅  
邑委員，山本委員，吉岡委員）

※猪股委員，山本委員については代理出席者あり。

（委員総数20名。詳細は別紙のとおり）

## III 議事

議長(海野会長)	<p>発言の際は，議事録作成のためにマイクの使用をお願いする。 運営要領により議事録の署名委員を選出する必要がある。内田委員にお願いしたいがどうか。</p> <p>（内田委員から了承の返答あり。他委員から異議なしの声あり。） 後日，署名をお願いする。本審議会は，公開を原則としている。本日の議題について，非公開とする理由はないと思うので，原則どおり公開したいと思うが異議ないか。</p> <p>（異議なしの声）</p> <p>それでは，公開ということにする。 では，議事次第に従って進めさせていただく。一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改定について，事務局よりご説明をお願いする。</p>
総務課主幹兼 企画係長	資料1から資料4まで一括説明。
議長(海野会長)	資料1から3について，一般廃棄物処理基本計画の策定にあたり確認しておくべきことがある方は挙手をお願いする。岡本委員。
岡本委員	今，国で25%のCO <sub>2</sub> 削減という大きな目標が掲げられて，今後，どう取り組んでいくのかという議論が出てくると思うが，自治体としても，今まで行ったことと大きく変わる部分もあり得ると思う。この計画の策定にあたり考えるべきことはあるか。
議長(海野会長)	大変重要なポイントだと思う。樋口委員。
樋口委員	今，仙台市では環境審議会も並行して開催しているが，これとの繋がりはどのように

	<p>考えているのか。</p>
議長(海野会長)	<p>それは議論の前提になるので、後ほど事務局からご報告願う。加藤委員。</p>
加藤委員	<p>ごみの排出量が計画どおりに推移していると報告されているが、コストという概念がどのように推移しているかを後ほど教えていただきたい。ごみを削減するというのは、市民、事業者、行政、それぞれの努力によって得られるものだと思うが、ベースになっているコストそのものが削減されているかどうか重要なポイントだと思う。</p>
議長(海野会長)	<p>ではこれまでの発言について、事務局より願います。</p>
総務課主幹兼企画係長	<p>コストについては、次回の審議会までには、お示しできる資料を準備したい。</p>
議長(海野会長)	<p>ではそれを踏まえ次回審議したい。松坂委員。</p>
松坂委員	<p>先ほど事務局から説明があったように、計画の目標値については、ほとんどが前倒しで達成となっているが、その原因は、家電リサイクル法、容器包装リサイクル法、家庭ごみ有料化実施という大きな要因があったためである。それらの影響を除くと、生活ごみなどは横ばい傾向が続いている。今後は家庭ごみ等有料化により排出量が更に減ると思うが、問題は、ある程度減った次の対策として、どういった施策を出すかということ。市民の意識改革は絶対に必要だと思うので、もう少し具体的な話し合いをしていかなければいけない。</p>
議長(海野会長)	<p>では、25%のCO<sub>2</sub>削減という政府レベルのフレームワークと、市の施策がどういう形で関連づけられるか、環境局長から願います。</p>
環境局長	<p>先日、環境審議会に仙台市環境基本計画「杜の都環境プラン」の改定について市長から諮問をした。現時点では、前政権の15%減という線で検討しているが、新政権の掲げる25%減という目標についてその内容が明らかになれば、それに沿った形で本市の目標値も定めていきたい。これに関する環境審議会と廃棄物対策審議会の審議が並行して進んでいるので、双方の審議会でも情報交換をする仕組みも検討していきたい。</p> <p>また、仙台市総合計画の改定作業も進行中である。順位としては仙台市総合計画が最上位で、その下に環境基本計画、その下に一般廃棄物（ごみ）処理基本計画が位置づけられるが、この3つとも、来年夏前には中間報告案が揃う。全ての計画を、2020年を目標として検討しているが、それぞれの審議の中で互いに関係する部分を報告し、ご議論ご意見をいただく形で進めていきたい。各計画の共通部分の整理や、分かりやすいパブリックコメントの求め方等もご検討をいただきたい。まずは廃棄物対策審議会としてご審議いただき、他の計画、審議会の模様、内容等も加味しながら、中間案を取りまとめていただきたい。</p>
議長(海野会長)	<p>単純に考えれば、上位計画が固まったらそれを踏まえて下位の計画を、ということだが、今局長がおっしゃったような状況なので、行政の方も高度なテクニックが必要ということで、技術を磨くいいチャンスだと思う。我々もうまくお手伝いできればと思う。</p> <p>それでは、主に資料4を中心として、中間案の素案を作るために、参考になるようなご意見を自由にご発言いただきたい。樋口委員。</p>
樋口委員	<p>資料4の6ページ、焼却工場の発電の関係だが、熱出力がいっぱいあるのであれば、コストそのものよりも低炭素社会の構築のために、ある程度本気になる必要があると思う。太陽光発電もコストが高くてやっているのだから、焼却工場の発電も将来、具体</p>

	<p>的に進めるということに是非していただきたい。検討というよりも、そういうものを利用するという表現に近いものにしていただきたい。今は、熱出力をもっている状況なのだから、もう少し推進していただきたい。</p>
議長(海野会長)	<p>現状はどうか。</p>
施設課長	<p>記載のとおり、工場が新しくなるほど発電出力が上がっている。基本にごみによってカロリーが違う。近年、カロリーがだいぶ上昇してきているので、それに合った設定をしておりその結果、こういった出力になっている。従って、ごみが変わってくると、出力の設定も変わってくる。今後のごみの状況を見ながら、システムについて変更できるかどうかも含めて検討したい。</p>
議長(海野会長)	<p>ちょっと横道にそれるかもしれないが、許容ごみ平均カロリーなど、パラメータの設定で変えられるのか。</p>
施設課長	<p>焼却施設の計画段階で、どういったごみを焼却するかということがポイントになる。それに応じてシステムを構築していくので、その前提が変わると、それ相応の発電が出来なくなるということも生じる。また、システム的には、ごみを焼却した時に蒸気が出るが、その蒸気量に応じて発電出力は変わる。従って、設計上限を超えるものが入ってきた場合、その設備では対応できなくなるという状況になるので、今後のごみの状況を見ながら、設備的に対応できるかどうか検討の必要がある。</p>
議長(海野会長)	<p>その辺はプラントメーカーと市の協議でうまくやっていただくことになろうかと思う。鈴木昇委員。</p>
鈴木昇委員	<p>5ページの、適正処理体制の③、適正処理体制の構築とあるが、やはりここで一番は震災廃棄物。今、近々発生するであろう宮城県沖地震、廃棄物の処理だけではなくいろいろな部分で自治体と市民で災害発生を想定した訓練を毎年盛んにやっているが、1年を経るたびに、やはり緊張感が増す。そういったことを体験していると、廃棄物の処理体制についても、体制はじめ対策を急ぐべきではないかと思うが、どのように考えているか。</p>
議長(海野会長)	<p>事務局から。</p>
参事兼廃棄物管理課長	<p>まず前提として、震災によって生じた廃棄物は基本的に一般廃棄物ということで処理することになる。ただし、残ったものを、解体業者が解体したのだから産業廃棄物ということにはなかなかならず、一般廃棄物として自治体が処理しているという例もある。問題は、どの程度の規模の震災が起きるかによって処理能力も変わってくるので、そのためだけに施設を自治体で整備するのは難しい。現在は震災廃棄物等対策実施要領に沿って、大量の廃棄物が出たときは一気に処理できないため、何処かに仮置きして少しずつ処理するという事になっている。</p> <p>この内容が一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中に入っていないので、今回改めて、記載していく必要があるだろうと考えている。どの程度まで書くかは今後の検討になると思う。</p>
議長(海野会長)	<p>現状で広域連携というのは出来ているのか。</p>
参事兼廃棄物管理課長	<p>宮城県北部地震の際は、被災した市町村のごみを一部処理した。ただ、想定される宮城県沖地震の際は、仙台市で発生するごみは相当量になると思うので、周囲の市町村に処理を依頼するというのはなかなか難しいだろう。</p>

議長(海野会長)	<p>他で問題が起こったときに、仙台市が引き受けるというのも可能か。</p>
参事廃棄物管理課長	<p>どの程度のごみが入ってくるかによるが、可能だと思う。</p>
鈴木昇委員	<p>一番はストックヤードの問題。それから近隣自治体との連携。連携といっても仙台市の震災廃棄物を他市町村が代わって処理するというのが困難ならば、ストックヤードの確保がまず一番であるから、出来るだけ早い時期に設定してはどうか。</p>
参事兼廃棄物管理課長	<p>震災が起きた時は、まずは人命が一番であるのでその救助に力を注ぐ。その次には今おっしゃったように廃棄物の、あとはトイレとか生活上の問題などいろいろあるので更に検討していきたい。</p>
議長(海野会長)	<p>次の論点に移りたい。庄司委員。</p>
庄司委員	<p>最近、携帯電話とかパソコン等のレアメタルに対する関心が非常に高いが、以前はそれほどでもなかったような気がする。現実には民間でもリサイクルしているところが少ないが、仙台市が主導的に業者に働きかける必要があると思う。資源の無い日本としては、非常に貴重な部分であると思うので、力を入れていったらいいのではないか。</p> <p>紙類の抜き取り問題については、今後 10 年間の指針になると思うので、条例の整備も考えていかなければいけないのではないか。監視員だけでは、トラブルなどで大変な部分も出てくるのではないか。</p> <p>テレビのアナログ放送停波について、現状と課題として資料 4 の 3 ページに載っているが、以前、町内会単位でテレビの引き取りをやっていたが現在はしていない。町内会長からはもう一回やってもらえないのか、という話も出ているので、タイミングを捉えた形での回収も検討課題ではないか。</p> <p>最近インフルエンザが蔓延しており、学校給食の廃棄が多いという話も聞くが、学校だけではなく、コンビニなども廃棄食品が多い。こういう問題も課題として審議する必要があるのではないか。</p>
議長(海野会長)	<p>いろいろあるが、基本計画の見直しに影響する範囲で、必要なコメントをお願いする。</p>
リサイクル推進課長	<p>携帯電話については、仙台市でも平成 14、15 年から、電話会社に対して、回収するよう要請をすると共に、リサイクルプラザ等に回収の窓口を設置した経緯がある。その後、基本的には業界で回収するという体制がとられたことで、販売店等での回収を指導してきた。その他の小型家電のレアメタルについては、秋田県の小坂町で取り組みが進んでいるようであり、携帯電話を含めて、経済産業省でも回収システムの構築について取り組みが進んでいる。また、市町村の廃棄物部門で構成されている全国都市清掃会議でも今後のあり方について研究されている。こういった方向性を見ながら、市としてどういった対応が必要なのか検討していくことになる。</p> <p>紙類、アルミ缶等資源物の抜き取りについては、資料 4 にもあるが、家庭ごみ等有料化実施後 125 件、月当たり 10 件程度ということで、他都市と比べると通報件数はそれほど多くはない。今年度下期から市内循環のパトロールも実施していくので、その現状や調査結果を皆様にお示ししながら、今後の対応についてご検討いただきたい。</p> <p>インフルエンザの蔓延に伴い、廃棄される学校給食の資源化のあり方については、受け皿の問題を踏まえ検討すべきと考える。</p>
参事兼廃棄物管理課長	<p>アナログ放送がデジタル化される上での、テレビの不法投棄の問題であるが、町内会の回収は平成 13 年まではそのようなやり方を行っていたが、その後テレビは家電リサ</p>

<p>環境局長</p>	<p>イクル法に基づき、郵便局でリサイクル券を買ってリサイクル業者へ依頼するシステムになっているので、無料で処理とはならない。ただ新しい製品を買った場合、古いアナログテレビは下取りという形で、事業者が無料で引き取り、事業者の責任で処理する場合もある。</p> <p>インフルエンザに伴う休校措置等で、その日の朝に学校の休校等が決まると、給食の調理で一番困るのは「米」である。前の日から研いであるので再利用できない。教育委員会では早めに連絡するようにしているが問題解決は難しい。</p> <p>紙類の抜き取りについては、それほどひどくはないと思っているが、事前調査の段階でも相当数出てきている。個人の回収業者というより組織的なものではないかと思っている。今月末からパトロール体制を強化するので、実態を明らかにし、必要であれば、条例の整備も必要だと思う。</p> <p>不法投棄対策だが、家庭ごみの有料化に伴う大幅増はみられない。市民、町内会の方の協力のお蔭と感謝している。しかし不法投棄をしやすい場所には依然として捨てられている。対策として、9月議会で補正予算を1千万円ほど組み、監視カメラ等も増設した。議会等から要望のあった夜間パトロールも、緊急雇用の予算を使ってこの秋にスタートしたい。まずは捨てにくい環境を作らない限り、不心得者の出現を防げないと思うので、今年の秋から実施し、来年春ごろにはその結果を審議会にもご報告し、仮に、パトロール等で防止できない場合は、何らかの条例化ないし罰則という問題も、審議会の中でご審議いただきたい。</p>
<p>庄司委員</p>	<p>家電リサイクルの関係でお話いただいたが、新しい製品を買って交換ということができない方もいると思う。今回は大きな変更であるので、無料ということではなくても、市によるバックアップ等、そういう体制が必要だと思う。町内会長などの声も聞きながらご検討いただきたい。</p> <p>レアメタルについて、秋田の小坂町には私も行ったが、向こうの業者の方は資格を取らないとだめということで、勉強や研究を盛んにしているところもあるようだ。仙台市でも事業者に対し、出来るだけ指導や支援を行えるといい。秋田に持って行ってお任せしますということではなくて、仙台市としても積極的にリサイクル施設を作っていかなければならないと思う。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>千葉委員。</p>
<p>千葉委員</p>	<p>先ほどの米の話だが、仙台でも五橋公園などで炊き出しをすると、わっと集まってくるという話もあるので、手続きは難しいかもしれないが、廃棄ではなく、別の形での活用というのも、一つの検討課題ではないかと思う。</p> <p>また質問だが、資料4の2ページの一番上、家庭ごみの中の37%、その中の70%がリサイクル可能ということだが、一部報道では古紙の回収について商売として成り立たないとか、古紙の再生も費用対効果の面でかなり難しい問題があるという話も聞く。現状はどうか。また、それに対する検討としてリサイクル対策の構築支援の検討とあるが、具体的にはどのような支援をイメージしているのか。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>抜き取りが行われるとどのような社会的影響が起きるのか。例えば環境によくないとか財政的にどうだとか。規則破りは規則破りだと思うが、コストに見合う見合わないとかがある一方、抜き取りがあるということは、抜き取った人はコストに見合うと思っているのだと思うが。</p>
<p>リサイクル推進課長</p>	<p>焼却される家庭ごみの25%くらいが再生可能な紙類ということで、8月上旬に4,500世帯に実施したアンケート調査では、分別しない一番大きな理由は、「分別が面倒」とか、「縛って出すのが面倒」というものだった。</p>

<p>議長(海野会長)</p>	<p>古紙市場については昨年の北京オリンピックと金融危機を境に、新聞紙でだいたい6割くらい単価が下がってきているが、まだ有料で買い取られている。</p> <p>コストをかけずに紙を集めるために、定期回収や集団資源回収から抜き取りというものが出てきている。ただ、抜き取られた紙類は単に捨てられるわけではなく、市内の古紙間屋に売却され、リサイクルされている。しかし、市民の意識は仙台市の定期回収に出しているというものなので、それを抜き取るという行為は、やはり市民の意識を損なわせる、市民感情として許されないというところで、今後こういった抜き取りにどういう対応していくのか検討していかなければならない。</p> <p>矢吹委員。</p>
<p>矢吹委員</p>	<p>古紙の抜き取りだが、昨日聞いた話だと、集団資源回収の前日に定期回収の設定がある地区では、町内会の方から集団資源回収に出すようにと、自宅に持ち帰って翌日出してくれという指導がなされている地区があるらしい。集団資源回収との整合性というか、抜き取るのは回収業者だけではなく、集団資源回収の回収団体になっているところもあるということをお知らせする。</p> <p>家庭ごみの約4割が生ごみということで、生ごみ処理機を購入するなど市民もずいぶん参加していると思うが、実際に出来上がった乾燥生ごみを回収する拠点が少ない。もてあましている人がたくさんいて、結局庭のない人はごみに出してしまうようなケースも多いと聞いている。受け皿として、今、朝夕市ネットを初め、いろいろなイベント時に回収するという方法をとっているが、回収の回数が少ないのと、回収をしてくださる農家には仙台市の農家がないと聞いた。やはり仙台市の方々にもいっぱい協力していただいて盛り上げていく必要があるのではないかと思います。</p>
<p>議長(海野会長)</p> <p>リサイクル推進課長</p>	<p>事務局から。</p> <p>紙類定期回収より集団資源回収に出すという地元の傾向は、先ほどのアンケート調査の中でも伺える。集団資源回収実施団体には、紙類定期回収と違う週、紙類定期回収を第1第3の週で集めるなら集団資源回収は第2第4の週とか、そういった週に行っていただきたい、そうでないと奨励金は差上げませんという指導もしている。</p> <p>生ごみについては、現在、市内5ヶ所、5区の朝市で野菜と交換というところから始まって、昨年の5月からは市内10ヶ所の市民センターで、随時交換を行っている。以前は2.5トンぐらいが年間の回収量だったが、昨年は9.1トン、今年も10月までで10トンを超えて回収、リサイクルされている。勾当台公園で実施している団体は市外の農家もいるが、その他の区の朝市、市民センターでの回収物は地元の農家にも使っていたくように拡大してきたところであり、電気式生ごみ処理機の受け皿も拡充してきた。</p>
<p>議長(海野会長)</p> <p>林委員</p>	<p>時間が迫ってきたので、今日ご発言の無かった方に、優先的に発言権を。林委員。</p> <p>資料4の2ページ、高齢者障害者等対策の充実が、不法投棄等対策に入っているが違和感を感じる。高齢者は今後どんどん増えるが、重いものを持ってないということがある。新聞を1ヶ月ためて、それを定期回収に出してくれといわれても、そんな重いものを持っていけない、ごみの中に入れて出してしまう方が処理できるということになりかねない。そういった回収の仕組み、教育も含め高齢者の方にも分かりやすく協力しやすい体制を検討していただきたい。</p> <p>一つ例を言えば、発泡スチロールの箱だが、容器包装リサイクル法では発泡スチロールの箱は、プラスチック製容器包装の赤い袋に入れることになっている。だが自分で園芸用を買ってきたプランターの代わりになるような発泡スチロールの箱は家庭ごみの緑の袋に入れることになっている。このへんは非常に分かりにくいものの典型なのではないか。高齢者の方が分かりやすい仕組み、そして出しやすい仕組み、これが大事にな</p>

議長(海野会長)	<p>るのではないか。</p> <p>環境局長。</p>
環境局長	<p>高齢者障害者対策がどうあるべきか、大変悩ましい問題でいろいろ考えている。この審議会の中で、先進事例等参考にご検討いただきたい。</p> <p>容器包装リサイクル法上のプラスチックとそれ以外の製品プラ、これは市民にとって一番わかりにくい点。政令市でも名古屋市が、容器包装リサイクル協会と話し合いながら、先進的なモデル事業等開始しているようだが、法対象の問題等があり、この辺をどうクリアするのか、審議会の中でご検討いただき、国に要望するものは要望しながら、高齢者を含め市民に分かりやすい分別収集のあり方というものを、他の政令市と一緒に探していきたい。</p>
議長(海野会長)	<p>国への提言含めて考えていきたい。</p> <p>私は今、熊本県の水俣市で廃棄物関係のことを調べている。水俣市はご承知のように、水俣病という非常に大きな問題で、町自体が、家族の中でもいがみ合うというような、そんな状況になってしまっていた。水俣市ではごみを21分別という、非常に細かい分別をすると同時に、時間帯を決めて一斉にごみを出すという方法を取っている。地区ごとに自主的に時間を設定してもらい、この地区は朝の8時から9時の間に出すなどルール作りをしている。もちろん全市的なコーディネートはしなければいけないが。また高齢者の問題だが、水俣市では、地域の高齢者に近所の人が行って、ごみを出す体制になっている。100万都市の仙台市と3万都市の水俣市を同列に論じられないことは当然だが、大事なポイントは、それをやることによって、市民の間のコミュニケーションが促進されたということだ。</p> <p>また、オーストラリアのアデレード、ここは仙台と同じ100万都市だが、そこも同じように市民にやらせたら、ごみをきっかけにしてコミュニケーションが促進された。アデレードの場合大きな町であるが、都市型の周りの人と疎遠になるような人間関係が、このことで幾分よくなりつつあるという話も聞いた。仙台のような大都市では難しいとは思いますが、やらせてみると案外やってしまうという事例だ。透明ごみ袋を導入するときも、懸念する声はたくさんあった。この中にもその時に審議会の委員だった方がいらっしやると思うが、やってしまったら、何とか出来てしまったという実績がある。</p> <p>合理性が無いことを行政がごり押しすることはよくないと思うが、後世の歴史に耐えうるような判断だったら、一時的に市民が難色を示してもやるべきだ、そう考えるべきではないか。</p> <p>内田委員</p>
内田委員	<p>今までの結果をみると、ごみ有料化後1年間では排出量が減っている。また、計画の目標も前倒しである程度クリアしていると、仙台市としては割とうまくいっているという状態で、この先の計画を考えたときに何を優先させるのか、例えばもう目標をクリアしているところで、さらに目標値をあげるのか、それとも費用対効果、コストとの関係でコストに対して費用対効果が高い方針のほうに行くのか、それとも先ほど会長の話にあったような、ごみの回収を通してコミュニケーションが取れるところを目指すのか、どういうところを優先するのか、ある程度の優先順位をきめて、計画を絞り込んでいってほしい。</p>
議長(海野会長)	<p>今の内田委員の発言は非常に重要なポイントの一つだと思う。その辺を念頭において、事務局も案の作成に当たっていただきたい。委員各位も、一人ひとりがそれぞれの立場から市民の代表として、何を優先すべきかということをお考えいただきたい。</p>
志田委員	<p>経済産業局として皆さんのご意見を聞いていると、各リサイクル法等、各省庁と一緒に</p>

(山本委員代理)	<p>にやっている身として、耳が痛いお話ばかりだが、ここにいると仙台市の事務局の方の立場として話を聞いてしまいそうになる。我々としても、仙台市あるいは宮城県と協力して、各リサイクル法が適正に回って、なるべくごみが出ないという社会を目指していきたい。ここで出た意見を国としても持ち帰って、今後の政策に活かしていきたい。</p>
<p>倉島委員 (猪股委員代理)</p>	<p>私もどちらかというとな事務局側に近い立場かもしれないが、ごみの問題、いろいろな数値目標を掲げてやっていると思うが、一定の予算の中で一番効率的な方法ということをやっているかと思う。いい数値目標を達成されるように頑張ってください。</p> <p>抜き取りの関係だが、条例が改正されたときには、警察として関わっていくことになるだろうが、他市町村の例を含め、実効性のあるような改正にしていただければよろしいかと思う。ごみだから持っていてもという話になりかねないが、やはり市民の公平な感覚からすると、リサイクルされるであろうと提供したものが、他人に持っていかれると、感情的に許されないこともあるだろうと思う。その辺を含めてご検討をお願いしたい。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>取り締りとモラルハザードのバランスをどうするかということだと思う。実効性のない取り締りをやると結局意味がない。それから取り締りのコストというのが。また今お話になった公正性をどのように納得していただくか、非常に微妙な制御をしなくてはいけなくて、行政にとってはとてもやりがいのある問題だと思う。</p> <p>平賀副会長。</p>
<p>平賀副会長</p>	<p>有料化実施にあたり、いろいろな所に説明に行きたくて欲しいという意見を出したが、このような実績をみると、仙台市内をくまなく行った成果だと思う。ごみやリサイクルに対する市民の意識、仙台市民はたいしたものだと思う。</p> <p>それに引き換え、事業所のごみは減っていないということなので、これからぜひ重点的に取り組んで欲しい。資料4の2ページの上の方に書いてある事業所による新聞等のリサイクルの支援の検討だが、表彰などをしていただければやる気がでる。会長のお話にあった、時間を決めてごみを出すという取り組みはクリスマスロード商店街が最初に始めて、駅前、国分町と広がり、本当に臭いのない町に仕上がった。だから、やれば出来ると思う。この地区は何時と決めて、ご協力してくださいと言えば、仙台市民はやってくれるのではないかと。大変な問題だが、仙台市民は本当に立派だと思う。</p>
<p>議長(海野会長)</p>	<p>加藤委員。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>例えば食品リサイクル法について、今後4年間で、事業者は45%まで削減しなければいけないという方向性が出されている。それで具体的な展開として、私たち事業者はその方向性に沿って様々な計画を展開している。</p> <p>しかし、現実問題として、私ども事業者がごみを処理するために処理場に持っていくときの、配送の方法や制度、あるいは仕組みであるとか、そういう部分に若干の障害があるとかなかなかうまくいかない。結果的に、資料4の4ページ、④の中に書いてあるように、食品小売業等から排出される生ごみ等については一般廃棄物として焼却処理されている。</p> <p>つまりどういうことかという、処理コストが安いゆえに、廃棄物として焼却処理をしてしまう。ということは、障害があることが前提だと思う。我々事業者側も、当然ながら自分たちの制度を見直していくつもりだが、行政においても、ぜひ、そういった障害になるようなことを整理し、対応していただかないと、より良い状況にならないのではないかと。今、多くの事業者が困っている現象が多々あるので、ぜひ、今後見直しをしていただければ、より良い環境に近づいていくのではないかと。</p> <p>総論的にしか今日は申し上げないが、ぜひそういった部分でも問題を明確にしていだいて、整理をお願いしたい。</p>



議長(海野会長)	早田次長。
早田次長	<p>今のご意見は、事業者側のごみ減量・リサイクルを推進するためにどうしてほしいというような要望かと思う。確かに、どちらかという適正処理を前提にして、この廃棄物処理法が組み立てられてきたのが過去だと思う。それが、循環型社会推進基本法の下で、各リサイクル法が平成12年あたりから徐々に出てきている。</p> <p>そういう観点で、適正処理は前提だが、ごみ減量・リサイクルを推進するような許可制度なり、仕組みというものを、やはり行政の方も考えていかなければならないし、そういう時期に来ているのではないかと思う。法律だと国の役割もあるため、そういうものは国に要望していくという前提はあるが、それだけでなく、自治体で出来ることが何かあるかというところを、ぜひ審議会の方でご議論いただきながら、我々事務局の方も真剣に考えていきたい。</p>
議長(海野会長)	時間も来たので、ここで一応終わらせていただきたい。では事務局にお返しする。
司会	<p>今回の審議会だが、今回は一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改定中間案の策定に向けたご審議をいただきたいと考えており、開催時期は2月頃を予定している。日程は改めてご連絡差し上げたい。</p>
議長(海野会長)	<p>本日はいろいろ貴重なご意見をいただき有難うございました。</p> <p style="text-align: center;">（ 閉 会 ）</p> <p>議事録署名人</p> <p style="text-align: center;">仙台市廃棄物対策審議会 会長</p> <p style="text-align: center;">仙台市廃棄物対策審議会 委員</p>